

兼松サステック

地盤改良に新技術

セメントと土、混ざりやすく

地盤調査や地盤改良工事を行う兼松サステック(東京都中央区)は、規模建築物の改良工事に対応可能な「ファインパイル工法Civ.(シビル)」を開発した。

地盤改良工事では、まず攪拌装置を地面にセツト、所定の深度まで回転しながら掘進。同時にセメントスラリーと呼ばれるセメントと水の混合体を吐出する。これが地中で固まり地盤改良となる。同社はこれに分散剤を



水谷羊介取締役

添加して粘度を低下させ、施工性の向上と改良体の一軸圧縮強度のバラツキを抑えた。現場の土とセメントスラリーの混練精度が向上することで強度が安定、改良工事の質が高まる。

今回、第三者的機関としてベターリビング協会がこの工法を認証。さら

に同社が加盟しているグランドユニオン協会の運用体制も認証された。

グランドユニオン協会は、ゼネコンや工務店などの加盟店が全国20社以上いる団体であり、加盟店であれば今回の工法で設計・施工できる。

同社の売上高は130億円で、ジオテック事業部は約60億円を占める。同社は戸建てを中心に地盤調査から補強、沈下修正も行う。年間施工件数は1000件弱。戸建

て住宅の地盤改良の件数は年間約6000件、地盤調査の件数は年間約9000件だ。

開発のきっかけは、同社の水谷羊介取締役の大学時代の研究。当時土とセメントがうまく混ざらず問題があった。「混合性を向上するということ、この問題を解決することを目指した」(水谷取締役)

初年度は5億〜10億円、1棟あたり1000万〜2000万円を見込む。「3月に認証されたが、すでに15件の施工が決まっている。工場や大型店舗、幼稚園、老人ホーム、倉庫など。大型消防署もある」。